

令和2年度 愛知県立西春高等学校 学校評価 (年度末評価)

本年度の重点目標	1 学力の向上を目指す学習指導の充実 2 夢を実現させる進路指導の充実 3 自主性や社会性を育む特別活動の充実		4 新型コロナウイルス感染症防止及び心身の健康に恵まれた生活基盤の確立 5 信頼され期待される学校づくりの推進	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導部)	①心身の健康を第一に、夢を実現させる生徒指導 一人間力の育成	・学習(授業)と部活動の両立の下、人間力の育成を図る。また、生活委員と連携をして将来を見据えた指導をする。	B	生徒の人格形成過程において、学校の生徒指導の在り方はその人生を左右すると言っても過言ではない。本校生徒には、将来の社会的リーダーが多く在籍しており、「模範」となれるよう育成を図りたい。学校教育活動の中では、部活動が心身の健康や人間力の育成に必要だと考えるが、部活動を早い段階でやめようとする生徒が多いのが現状である。しかしながら挨拶・清掃面などはしっかりと取り組む生徒が多くみられるので、継続してより向上させていきたい。 本校では、学習と部活動の両立は勿論のこと、時間の使い方にも踏み込んだ指導を今後も展開していきたい。
	②社会規範の確立といじめの防止	・身近な交通のマナーや規則の遵守から公共性や社会性の拡充を図る。 ・生活委員会の活動の一環として「生活だより」発行の他にも交通ルールやマナーの遵守について生徒自らが考える場を設ける。 ・いじめを許さない健全な心の育成を図る。	B	年度当初から交通ルールの遵守については、「命を大切に」という観点から、「交通安全教室」などを利用して、生徒に伝えてきた。本年度は、コロナの影響での休校のため、自転車の左側通行についての指導など自転車通学者への指導が十分にできなかった部分もあり、注意する生徒が多かった。交通事故が減少しない点については今後の重点課題であるが、西枇杷島警察署から依頼を受けた「100日間無事故無違反ラリー」は無事に達成することができた。 2回目のいじめ防止アンケートを記名方式で実施したが、担任や相談部と多角的に考察した結果、今のところ重大案件は見当たらない。また、生徒の大多数で「西春高校はいじめがない」という印象は強いようである。ただし、SNSでは不透明な部分があるので、今後も平日頃から生徒の言動の1つ1つに注視していきたい。
学習指導 (教務部)	①新教育課程の実施に向けたカリキュラムの研究	・「信頼され期待される学校づくりの推進」という観点から、本校生徒に適した新カリキュラムを追究する。	B	教育課程委員会および作業部会では、各教科の先生方の御協力を得て、建設的な議論の下で新教育課程表が形成された。今年度に進める予定だった評価法や「総合的な探究の時間」のあり方などの議論が、コロナ禍の影響で、後手に回ったので、次年度に挽回したい。
	②授業を核とした学習活動の充実	・学習サイクルの一環としての授業や考査のあり方を考えさせるとともに、学習習慣を核として「心身の健康に恵まれた生活基盤の確立」を目指す。	A	長期にわたる休校期間で、家庭学習の大切さを改めて意識させられた一年であった。たびたび追加の課題が出されたが、多くの生徒はしっかりと取り組み、学習の遅れが最低限にとどめられたと考える。今後も学校での学習に加えて、家庭学習が重要な位置を占めていることを呼びかけ続けて、学習のサイクルがうまく循環するように指導していきたい。
進路指導 (進路指導部)	①心身の健康に恵まれた生活基盤に立ち、学力向上を目指す学習指導・夢を実現する進路指導の充実	・生徒の進路意識の高揚を図る。 ・入試問題の研究や模試結果などの分析から課外指導の内容を検討する。 ・1、2年生では基礎・早朝テストを通して学習習慣の定着を図る。 ・入試改革を行う大学の情報を収集する。 ・保護者に対して適切な情報を発信する。	B	年度初めのコロナによる休校により、本来ならば4月に行う予定になっていたガイダンス(3年生・1年生)が実施できず、意識の高揚という点ではやや不安が残る今年度のスタートとなったが、学年団からの働きかけを中心として遅れは取り戻せたと感じている。また、各学年で進路検討会・進路研究会を開催し、学力伸長の具体的方策を考えることができた。 基礎・早朝テストについては、合格率等の課題も残っており、今後のよりよいあり方を検討する必要がある。
	②信頼され期待される学校として、大学入試の多様化への対応を図る。		A	大学入試改革初年度であることに加えて、コロナによる特別措置や変更が相次いだ。必要な情報は生徒・保護者に対して発信できた。ただし、保護者説明会や生徒への説明会のあり方は「新しい生活様式」を踏まえた形を継続的に考える必要を感じている。また、近年増加している小論文や面接にも組織的に対応できている。
総務 (総務部)	①安全安心な学校づくり	・防災教育の強化	A	防災委員会として、生徒が主体的に取り組むことができた。防災食品の設置について、適切な場所へ配置し直すことができた。コロナ禍における防災訓練の在り方について、生徒の提案を元に、玉去して行うことができた。
	②魅力ある学校像の発信	・学校説明会の充実	B	コロナ禍における学校説明会の在り方について、さらに検討をすすめることが重要である。リスクの回避のため、今年度は、ホームページを活用したり、リーフレットを配布したりするなどして発信を行った。
生徒会活動 部活動 (特別活動部)	①西春祭の充実	・文化祭ではクラス企画の充実を図る。 ・体育祭ではブロックの団結力を高める。	A	コロナ禍により、西春祭を平常通りに実施することができず、急な変更をせざるを得なかった。しかしその状況での検討から文化ウィークという行事が生まれ、例年の文化祭ではみられなかった「全員で文化部発表の鑑賞をする」という形を実施できたことは、今後の文化祭を充実させるヒントにもなった。体育祭においても、時間のない中で「現状をどう工夫したら実施できるか」を生徒が主体的に考え実施できたことは、今後の生徒会活動につながる経験であったと思う。どんな状況であっても、「どうしたら実施できるか」という発想を忘れず対応していきたい。
	②広報活動の充実	・掲示板を充実させる。 ・生徒会新聞の内容を充実させる。	B	今年度は表彰式を行えなかったため生徒会新聞を活用したが、掲示板を活用した広報活動を生徒会新聞の内容を充実させる。集会が行えない中で、部活動・学校行事・ボランティアなどの生徒会活動の積極的な発信を、今後は検討していきたい。
保健厚生 (保健厚生部)	①環境美化活動の充実	・環境美化に関する生徒の意識向上を促す活動を行う。 ・清掃道具などの環境整備	A	新型コロナウイルス感染症防止の観点から、学校医の助言のもと清掃道具の整備等柔軟に対応することができた。学校再開からしばらくの間は、教室のごみ箱設置を見合わせ、ごみの持ち帰り指導も徹底することができた。教室にごみ箱を戻した後も、生徒の持ち帰りの意識は高く、教室から出るごみの量はかなり減少した。
	②教育相談の充実	・教育相談や特別支援についての知識を教員間にひろげる。 ・個々の生徒に対する支援活動を充実させる。	A	不登校傾向等ごとの問題を抱える生徒への対応について、担任と連絡を密にし、また、方角センターの先生や学校医の先生とも連携を密に図ることができた。部員が担任会に参加することで、心配な生徒の情報を早めに把握することができた。さらに特別支援教育委員会へカウンセラーの先生に参加していただくことで、より専門的な見地からの助言を受けることができた。
図書情報教育 (図書情報部)	①読書活動の一層の推進	・魅力ある学校図書館作りをすすめる。	A	ゼビロオパタル・読書感想文・読書体験記・読書感想画に積極的に取り組むことができた。特に読書感想文は県知事賞受賞という快挙であった。図書館だよりの発行や委員会活動(クイズ・おみくじなど)、館内の飾りつけも活発に行うことができた。
	②ホームページ等による積極的な情報発信	・本校の魅力が十分に伝わるような内容を目指す。	A	随時、更新した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大により急な情報発信、動画サイトへのリンクなども多かったが、適切に対応できた。
学年指導 (第3学年)	①生徒の進路実現のための進路指導と学校を中心とした学習指導の充実を図る。	・習熟度に応じた学習指導 ・進路情報の活用 ・最後まで諦めさせない指導 ・生徒情報の把握	A	年度当初の休校により学習への取り組み方に個人差があり、授業再開後の姿勢を心配したが、補習等には概ねしっかりと参加出来ていたのではないかと思われる。また、早朝学習の時間を設けることで学習環境を整えることができた。補習では、クラス固定を基本としながらも、習熟度でクラスを編成する等、学習指導を柔軟に行うことができた。ただ、どうしても自分のやり方に固執する生徒は一定数おり、そういう生徒へのアプローチの仕方を考えねばならなかった。進路については進路検討会等で情報を共有し、担任からだけでなく学年全体で声をかけるなどして指導を行うことができた。
	②心身の健康に留意し、学校生活を送らせる。	・日々の健康観察を丁寧に行う。 ・生徒情報の交換を密に行い、クラスを越えてケアできるように態勢を調える。	A	精神面・体調面で不調を来していた生徒に対しては、情報共有により、個々の生徒の状態に応じて配慮等できていたのではないかとと思われる。
(第2学年)	①心身の健康に恵まれた生活基盤の確立と、学習の向上を目指す学習指導の充実	・日頃から時間や期限をしっかりと守らせる。 ・週末課題や100字要約を用いて家庭学習の充実を図る。	A	2年生になって多くの生徒が高校生活に慣れ、基本的な生活習慣を確立することができている。早朝テストの準備や課題を通じての家庭学習は、多くの生徒に定着し学習習慣が育ってきた。一方でノルマに追われて自発的な学習に至っていない生徒もまだ見受けられる。最終学年に向けて、さらに成長・改善できるように指導を継続していきたい。
	②自主性や社会性を育む特別活動の充実	・積極的に部活動や学校行事に参加させる。 ・積極的に「530運動」などのボランティア活動に参加させる。 ・生徒指導を通して、モラルを高める。	A	新型コロナウイルスの影響で多くの学校行事が中止または縮小し、また部活動もいろいろな制約の中での活動となったが、できることを探りながら行う活動できるように思われる。ほとんどの生徒がしっかりとモラルを守って学校生活を送れているが、2年生になって高校生活に慣れたためか時間にルーズになってきている生徒が一部に見られた。余裕を持って行動できるよう次年度も引き続き指導していきたい。
(第1学年)	①規則正しい生活習慣と授業を中心とした学習習慣の確立	・遅刻・欠席・早退をせず、積極的な学習態度で集中して授業に臨む習慣を身につける。 ・週末課題・基礎テスト・生活記録などを活用して、家庭学習の習慣を身につける。	A	安易な遅刻、欠席、早退はほとんどなく、ほぼすべての生徒が授業に集中して取り組み、安定した学校生活を送ることができた。基礎テストも7時55分着席を促すことにより8時過ぎに遅刻してくる生徒はなく、他の面でも時間はしっかりと守れていた。 また、廊下のロッカーの上の荷物や教室の環境整備もしっかりと出来ていた。今後も継続して指導していきたい。 コロナ禍で休校が続き、始まりが5月下旬と遅く、新生活の変化に対応しきれず、精神的に不安定になる生徒がみられた。面談などで声掛けをして、担任だけでなく学年全体で協力して対応していきたい。
	②責任ある大人としての自主自立性・社会性の涵養	・日頃の呼びかけにより美化意識を根付かせ、より良い生活環境を作る。 ・様々な行事や活動に積極的に参加することで、周囲との調和を図りながら学校生活を送る。	B	コロナ禍で学年集会をはじめ対面での講話の制限がある中ではあったが、校内放送などを利用して、すべてのモノ、ヒトに対して感謝の気持ちで生活し、大人としての自覚と責任をもって行動できるように指導してきた。行事が縮小または代替、取りやめになることも少なくなかった。このような社会情勢の中でも実行できる行事、活動を今後検討していきたい。
安全衛生委員会	勤務時間の適正化	・長時間勤務による健康障害の防止を図る。	B	コロナ禍において、急な検診や対応に追われることが多く、特定の職員に負担をかける状況になったが、長時間勤務による健康障害はなかった。月80時間を超える職員に対しては、状況を確認し、声掛けや助言、業務を軽減する等の対応をした。
総合評価	コロナ禍において、様々な教育活動に制限があり、通常通りの活動ができなかったが、生徒の健康・安全を第一に考え、限られた条件の中で、各分掌・学年が工夫しながら教育活動を進めることができた。来年度も今年度の反省を活かすとともに、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて臨機応変に対応しながら、生徒・保護者、そして地域に信頼される学校づくりの推進に尽力していきたい。			